

「外来高カリウム血症患者のマネージメントと転機に関する検討」に対するご協力のお願い

研究責任者 畑上 達彦
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2014 年 3 月 1 日から 2024 年 7 月 31 日までの間に、血清カリウム 6.5 mEq/L 以上となった患者さん。

2 研究課題名

承認番号 20251164

研究課題名 外来高カリウム血症患者のマネージメントと転機に関する検討

3 研究組織

研究代表機関

慶應義塾大学病院

研究代表者

(職位) 専任講師 (氏名) 畑上 達彦

共同研究機関

東京都済生会中央病院

研究責任者

(職位) 医長 (氏名) 小松 素明

4 本研究の目的、方法

高カリウム血症は致死的な不整脈を引き起こす危険な病態であり、特に外来で重度の高カリウム血症が確認された際の入院判断は、臨床上の重要な課題です。これまで、重症例では安全のため入院管理が選択されることが多かったですが、その判断が死亡や再発、末期腎不全への移行といった短期的な予後を確実に改善させるかについての明確なエビデンスは不足しています。

今回我々は高カリウム血症の治療における入院加療の要否に着目し、その有効性と転機について検討したいと考えております。具体的には過去の電子カルテを遡り、高カリウム血症の患者様において入院加療が必要となった方となかった方をカルテ記載から確認し、どのように治療方法が異なるのか、予後はどのように変化するのかなどを、血液・尿検査などの結果とともに評価させていただきます。

5 協力をお願いする内容

西暦 2014 年 3 月 1 日から 2024 年 7 月 31 日までの間に、外来で血清カリウム 6.5 mEq/L 以上となった方のデータを使用し、治療内容と転機を評価するための解析を行わせていただきます。冒頭に述べました通り、新たなサンプルの取得は一切ございません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究分担者：杉原晋之介 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: sugihara1993@keio.jp

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第 2・4・5 週の土曜日(ただし祝日は除く)、午前 8 時 40 分から午後 4 時 30 分]にお願いいたします。

以上